

トトリ
カザナリ
ツキ
グート
ゲッファ
イエスマン

- 01 トトリ「あれっ、このメンバーで食事って珍しいね」
- 02 カザナリ「トトリさん、こんちわー」
- 03 ツキ「お疲れ様です、教官」
- 04 グート「教官、この人どうにかしてください」
- 05 ゲッファ「トトリ教官、好きだー！俺と再婚してくれー！」
- 06 イエスマン「俺に別れろってーのかよ！？」
- 07 トトリ「残念、今のところ乗車切符は一枚だね」
- 08 ゲッファ「わお……カッコイイ返し方きたぜ」
- 09 カザナリ「グート、用意」
- 10 グート「どうどう？ ツキちゃん見てよコレ」
- 11 ツキ「凄く、トゲトゲです……」
- 12 ゲッファ「乗車切符って乗る為に必要なんだよな、これってエ　　」
- 13 グート「……ふう、イイシゴトヲシタゼ」
- 14 カザナリ「トトリさんはどうしてここに？」
- 15 トトリ「こいつ探してたわけ、ご飯前に一つ仕事があったのに、気付いたらいないんでね」
- 16 イエスマン「俺？ 何々？ 俺なんかしなきゃならない仕事あったっけ？」
- 17 トトリ「ほほう……言うようになった」
- 18 ゲッファ「やべえ、教官マジギレだ！」
- 19 カザナリ「クギの刺さりまくってるパット、取ってから復活しなさいよ」
- 20 グート「いや、今抜いたら血がテーブルに広がって、俺たちの昼食にまで降りかかってしまう」
- 21 ツキ「いい加減、APFのカスタマイズ機能、切って貰わないとダメなのかな？」
- 22 ゲッファ「ツキちゃん、俺死んじゃうからそんなことされたら」
- 23 ツキ「いや、その程度では直らないと思うのですが……」
- 24 ゲッファ「直らない？ なにが？」
- 25 カザナリ「転生しても無理でしょうね」
- 26 グート「魂が消滅したらいけるか？」

- 27 トトリ「お前は、どうして、いつも、肝心なときに、忘れた忘れた、と！」
- 28 イエスマン「アガガガガ！ ち、違うんだぜトトリ！ 一人出ていくアガガガ背中を見つけて　　ギリギリ音してるから！」
- 29 トトリ「ああん？ しっかり話さなくてはわからんなあ……」

- 30 イエスマン「拷問キタコレ！？話す、話すからヤメテ半分だけでいいから優しさ頂戴！アイアークローはマジ勘弁しぎゃぎゃぎゃぎゃ！」
- 31 トトリ「半分程度でいいんだな、よし分かった」
- 32 イエスマン「まだ痛い！？くそっ、くだらねえ揚げ足取りやがって！」
- 33 トトリ「憂さ晴らしだね、日頃の」
- 34 イエスマン「やめて?!」
- 35 トトリ「だが断る つもりだが」
- 36 イエスマン「イダダダダ……よ、ようやく終わったか」
- 37 トトリ「人前で自分の間抜けさを公表するからいけないんだ……さあ、早く行こう、のんびりしてられるほど、楽な立場に居るつもりはない」
- 38 イエスマン「そうなんだが……」
- 39 ツキ「……えと、私に、惚れるなよ？」
- 40 カザナリ「どういう方向性なんだろう、この子の脳内お花畑は」
- 41 グート「さあ？とりあえず、常識っていう太陽にあえて背くヒマワリみたいな感じ、とは思ってるけど」
- 42 ゲツファ「精一杯刃向かってる感じがカワイイ！」
- 43 グート「カワイイ！」
- 44 イエスマン「えっと トトリ、そんなに抑えきれない衝動が溜まってるのか？」
- 45 トトリ「というか、お前にはいつでも抱いているぞ」
- 46 イエスマン「そうだよなあ、朝は中途半端だったし、昼前にはスッキリしておか」
- 47 カザナリ「えっ？」
- 48 グート「見えなかつ、たぞ、おい、パンチ？キック？」
- 49 ゲツファ「初速……ありえね、秒間七千フレームに分解してようやく何が見えるぞ、手とも足とも判断つかないが」
- 50 ツキ「まあ、あれ以上は教育上の配慮と風評なんかを気にしてたんでしょう、どっちも今更感が漂いますが」
- 51 トトリ「今更とか言うな！コホンッ、それでは、私はコイツを連れて戻る。が、良いか？さっきこいつが口走りそうになったウソ、その先を想像したり、これからに当てはめたりするのはとてもいけない事だ、分かっているね、諸君」
- 52 カザナリ「了解しましたよ、トトリさん」
- 53 ツキ「口に出したりはしませんよ、ええ」
- 54 グート「ツキちゃん一筋ですから」
- 55 ゲツファ「まったねー、トトリきょうかーん」
- 56 トトリ「……では、失礼」
- 57 カザナリ「午後の授業で会いましょうねー、……さあ、残り食べちゃおうか」
- 58 ゲツファ「あっ、イエスマンの分は俺がいただきー」
- 59 ツキ・グート「どうぞどうぞ」
- 60 トトリ「お前な？どうして昔からバカが直らないんだ、自覚的なバカだとしたら矯正できるんだが、お前は天然にバカだから困る、分かるか？教育者なんだぞ、私たちは、大人から子供へ、このサイクルは絶やせない、重要な人間の」

- 61 イエスマン「でも、そのサイクルを全うできない人間だって、居るさ」
- 62 トトリ「それは怠けて 怠けているか、やむにやまない事情があった場合、だ。というかお前、憶えてたのか？ あの人達の墓参りに行こうって話し」
- 63 イエスマン「その点に関しては、悪かった。謝る。俺都合でさ、折角作ってくれた自由時間が無くなったし」
- 64 トトリ「次に空くのは半年後かもしれないから今日行こうって、お前が誘ってきたんだろうが、それなのにいきなり反故するわ連絡しない(*1)わ、律儀に待っていた私に対して……なに？ ごめん、もう一度言ってくれ」
- 65 イエスマン「背中がさ」(*1)記号の場所で割り込み
- 66 イエスマン「背中がさ、見えたわけよ、背中丸めて、手に持った花束をぞんざいに扱って、哀愁漂わせてでていく、俺たちが作っちゃった男の背中をな」
- 67 トトリ「そうか、あいつも」
- 68 イエスマン「そんなわけで、急遽中止。一緒に並んで『色々問題はありますが、なんとか元気にやっていますよ』なんて言える訳がない」
- 69 トトリ「そうだね、確かにそうだ。なににも言うことはできない」
- 70 イエスマン「あとさ、今日の午後はツキちゃんがトウキと一緒に墓参りだとさ。授業後だろうし、その更に後ってなると、もう夜も近い」
- 71 トトリ「ハア……今年こそは、一日も遅れることなく行けると思ってたのになぁ」
- 72 イエスマン「しかたないさ。自虐的でも、過去を見続けなきゃ癒えない傷もある。その場を、既に割り切ってしまった大人が奪っていい訳がない」
- 73 トトリ「傷、ね、あれから十年経過したのに、時間とはお構いなしに、直らない傷もあるんだな」

デモサ、シカタナイジャナイカ